

さくら・すみれ学級 自立活動学習指導案

- 1 個人課題 ・互いのよさを認め合い,伝え合うことのできる児童の育成 (さくら学級)
・自分の思いを伝え,楽しく学習できる子どもの育成 (すみれ学級)
～コミュニケーションの取り方の工夫を通して～

2 題材名 「よく聞いてしっかりこたえよう」

3 題材について

(1) 児童について

さくら学級 (知的障がい学級) には,2年1名,3年2名,4年1名,6年3名が,すみれ学級 (自閉症・情緒障がい学級) には2年1名,3年2名が在籍している。

支援学級で国語・算数を学習し他の教科を交流学級で学習する児童,ほとんどの教科を支援学級で学習している児童など様々である。また,どちらの学級も異学年集団であり,個別の課題を設定して指導している。

児童は,素直で穏やかな性格の児童が多く,学級では仲良く過ごしている。しかし,環境が変わると,自分の思いや考えを話すことができなくなる傾向にある。また,相手の話の内容を理解できず的確に答えることの苦手な児童もいる。人なつっこく人と関わることが好きな反面,相手の気持ちを気にかけることなく,自分の思いだけで接したり,周りの状況や雰囲気を感じることなく思いのまま行動したりすることも少なくない。

児童は昨年度の3学期から生活単元学習の中で「運動タイム」,「なかよしタイム」に取り組んできた。「なかよしタイム」では,「集中して聞くこと」や「静かに待つこと」など,主に学習態度を身につけることをめあてに簡単なゲームやクイズに取り組んできた。ゲームの説明を聞く態度や待つ態度は身につけてきたが,ゲームの中で大事な言葉を聞き取る力は十分ではない。

(2) 題材について

特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の自立活動の目標は「個々の児童又は生徒が自立を目指し,障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識,技能,態度及び習慣を養い,もって心身の調和的発達の基礎を培う。」とある。このことから,日常生活や学習場面等において,障がいによって生じるつまずきや困難を軽減したり,障がいがあることを受容したり,つまずきや困難の解消に努めたりすることが必要である。また,発達の不均衡を改善したり,発達の進んでいる側面をさらに伸ばすことによって遅れている側面の発達を促すようにしたりして,全人的な発達を促進することが大切である。

本校の特別支援学級では,今年度から週1時間自立活動の時間を設定して取り組んでいる。児童の実態から自立活動の6つの区分から主に「2心理的な安定」「3人間関係の形成」「5身体の動き」

「6 コミュニケーション」の4つの区分を重点に指導している。

(3) 指導について

自立活動では、「運動タイム」と「なかよしタイム」を設定している。「運動タイム」では、持久走やリレーなどの走る運動、縄やボール、平均台、遊具などを使った遊び、鬼ごっこ系の遊びなどを取り入れて、日常生活に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な動きができるようにしたい。「なかよしタイム」では、ゲーム感覚で楽しめる活動を取り入れて、学習態度の定着を図りたい。また、場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにしたい。

本時は、「お願いカルタ」と「インタビューゲーム」を行う。「お願いカルタ」は、言葉で「お願い」をしてカードを集めるゲームである。やり取りの基本となる言葉を使えるようにしたい。また、人の話を聞くことの必要性を実感させたい。「インタビューゲーム」では、相手に質問したり答えたりするゲームである。インタビューのマナーを理解させるとともに、他者への関わりや適切な質問・応答ができるようにさせたい。

4 本時の指導

(1) 目標

児童同士でインタビューし合い、友だちとのかかわりや適切な質問・応答ができる。

(2) 児童について (別紙)

(3) 個人課題や共通課題との関わり

意欲の喚起 (視点1 共通)

- 学習の流れを示し見通しをもたせる。
- ゲームのやり方やルールを視覚的に提示して理解させる。
- 話型を提示する。
- 学習態勢のよい児童をほめる。友だちに教えたり教えてもらったりしたとき、質問できたときなどにほめる。

学び合い (視点2 共通)

- 関わり合いの場をつくる。
- 聞き返したことや友だちを手助けしたことをほめる。
- 振り返りの場で活動の感想をもつことができたり、友だちの頑張りを見つけたりできたことをほめる。

個人課題

〈さくら学級〉

「学び合い」に関わり、児童と児童、児童と教師が関わり合いながら、自分の考えや思いを伝えたり友だちの考えや思いを聞いたりする。その中でコミュニケーションの取り方を学び、人と関わることの楽しさを味わわせたい。

〈すみれ学級〉

「学び合い」に関わり、児童と児童、児童と教師が関わり合いながら、自分の考えや思いを伝えたり友だちの考えや思いを聞いたりする。その中ではっきり尋ねたり聞かれたことに的確に答えたりすることができるようにさせたい。

(4) 展 開

階 段	学 習 活 動	指 導 の 手 立 て
導 入 5 分	<p>1 学習内容と本時の流れを知る。</p> <p>(1) めあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">よく聞いてしっかり答えよう。</div> <p>(2) 本時のゲームを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お願いカルタ ・インタビューゲーム 	<p>☆視点1 (本時の意欲)</p> <p>本時の1時間の流れを予告し,見通しを持たせることで,落ち着いて学習に向かう姿勢をつくらせる。</p> <p>★聞く姿勢ができればカードで評価する。</p> <p>○「聞くマーク」(耳と目と口)を表示し,態度のいい児童には,「ばっちりマーク」を貼って良さを認める。</p> <p>○話を落ち着いて聞くことが苦手な児童へ教師が支援する。</p>
展 開 30 分	<p>2 ゲームをする。</p> <p>(1) 「お願いカルタ」をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①説明を聞く。 ②3～4人グループを3つ作る。 ③ゲームを行う。 <p>(2) 「インタビューゲーム」をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①説明を聞く。 ②モデルを見る。 ③話型に沿って練習する。 ④二人ペアでインタビューを行う。 ⑤発表の練習をする。 ⑥みんなの前で発表する。 <p>(3) 先生の話聞く。 「ばっちりマーク」について</p>	<p>☆視点1 (ゲームへの意欲)</p> <p>実際に教師がやって見せて,具体的に理解させ意欲を持たせる。</p> <p>○ルールの確認をする。</p> <p>○教師がやって見せる。</p> <p>○児童に言葉の練習をさせる。</p> <p>○教師がモデルとなって,具体的にやって見せる。</p> <p>○二人ずつペアになり,インタビューやメモをとる活動をさせる。</p> <p>○メモをとる時には,書くのを待ってあげたり,忘れて教え合ったりして協力し合うよう支援する。</p> <p>○3人の教師がペアの活動の支援をする。特に,A児・B児・G児・H児・I児を中心に行う。</p> <p>★☆視点2</p> <p>インタビューの答えを確かめ合ったり練習したりしている児童を褒める。(支援員)</p> <p>■相手の質問をしっかり聞き,インタビューに答えることができたか。</p>
終 末 10 分	<p>3 振り返りをする。</p> <p>(1) 本時の自分の頑張りや頑張った友だちを見つけてメモをする。</p> <p>(2) 自分や友達の頑張りを発表する。</p> <p>(3) 先生から 本時の活動について・・・T2</p>	<p>○考えてメモする時間をとる。</p> <p>○A児・B児・G児・H児には聞き取りをする。</p> <p>■自分や友達の頑張りを見つけることができたか。</p>

★個人研究に関わって ☆共通課題に関わって

■評価(評価方法) ○指導の手立て(留意点)・予想される児童の考え